

Excel マクロを用いたルーブリック評価入力の効果

酒見 康 廣

Effects of Rubric Evaluation Input Using Excel Macros

Yasuhiro Sakami

1. まえがき

“アクティブ・ラーニング”の用語が2012年8月の中央教育審議会（中教審）による答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」に登場して以来、各大学ではアクティブ・ラーニングへの取り組みが次第に活発になった。幅広い意味を持つ“アクティブ・ラーニング”は、誤解を招きやすいということからか、2016年の中教審審議のまとめからは“主体的・対話的で深い学び”という表現に変わってきた。一方で、3つのポリシーが2005年の中教審答申「我が国の高等教育の将来像」において登場し、2008年の中教審答申「学士課程教育の構築に向けて」で改めて3つのポリシーの重要性が強調された。その後各大学での3つのポリシーへの対応が進む中で、2016年には「3ポリシー策定のためのガイドライン」が策定され、2017年からは大学に対し3つのポリシーの策定と公開が義務付けられた。

さらに、学士課程教育の学修成果に対する組織的な質保証のためのアセスメント・ポリシーが求められるようになった。学修成果の評価尺度のひとつとして、パフォーマンス評価でもあるルーブリック評価が注目されている。

筆者は、自分が担当する科目に対し平成29年度からルーブリック評価を導入したが、受講生にルーブリックの内容を事前に提示したうえでルーブリック評価を始めたのは平成30年度からである。「数学」の授業では毎回アクティブ・ラーニングを実施し、それによって受講生が内容を本質的な部分も含めてどの程度理解したのかを確認するために、理解した内容を振り返りシートにレポートとして授業中に書かせて回収している。このレポートの評価に対し、当初はあらかじめ準備した通常の形式の一つのルーブリックで統一的に対処することを考えていた。しかし実際に評価をしようとすると、期末試験の1回だけで評価する場合はその形式で何ら支障はないのであるが、毎回異なる内容の振り返りシートの評価

に対しては、一つの同じルーブリックを使用するよりも、各回の内容に応じた異なるルーブリックをそれぞれ個別に用意した方が評価しやすいことに気付いた。さらに、Excelのマクロを使用して、受講生の名簿データとも連動させ、数字キーで入力することなくマウスのクリックのみで評価データを入力できるようにしたことで、評価入力作業をかなり効率化することができた。また、Excelマクロによる汎用版のルーブリックを作成したが、これは評価指標や評価水準を科目やレポートごとに随時カスタマイズして利用するためのもので、便利に活用することができるようになった。本稿では、筆者が平成30年度に担当した科目の「数学」や「キャリア形成演習Ⅲ」（共同担当）などを中心として、レポート等の評価のために作成したExcelマクロを用いたルーブリック評価の概要とその効果について報告する。

2. ルーブリックの導入

筆者が最終的にExcelマクロを用いたルーブリックを導入したいきさつは、「数学」でのアクティブ・ラーニングと関連している。ここでは「数学」のアクティブ・ラーニングの概要と、ひとつのルーブリックから課題ごとの異なるルーブリックへ移行した経緯について記す。

筆者は、平成26年度から「数学」でのアクティブ・ラーニングとして、数学の話題を盛り込んだ模擬テレビ番組をグループごとに創作させ、グループの全学生がその番組の出演者になって実演するというプレゼンテーションを実施した（酒見（2018）参照）。4人で1グループとし、番組の形式は全くの創作でも既存の番組（クイズ番組、教養番組、ニュース、芸能番組、トークショーなど）を真似たものでもよいことにした。たとえば、司会役の一人が、芸能人役の二人に最近の話題や芸能情報などを雑談として交わす中で、頃合いを見て数学のトピックを持ち出す。芸能人役の二人がそれについて話をするが、結局よくわからないとうことで教授役の人が登場する。

教授役はその数学のトピックの詳しい解説をする。それに対し、芸人役はボケと突っ込み入れながら質問をして、教授役は再度別の角度から解説し直す。最終的に全員がやっと理解するといった内容にする。視聴者が番組の出演者の話のやり取りの面白さに引き込まれるうちに、数学の内容も自然と理解してしまうような番組であるほどよいプレゼンテーションであるとした。これは以前のような教員からの一方的な講義だけの授業とは教室内の雰囲気が一変してしまった。授業に活気が出て結構盛り上がりを見せる結果を見せた。しかし、グループ内の熱心な一部の学生に他のメンバーが頼ってしまうという学生の取り込み姿勢に結構差が出ることや、グループでの事前準備作業時間の確保が簡単ではないことの問題点、内容に対する数学的な適切さや正しさなどを担当教員の筆者が事前にチェックする作業の負担の大変さから、このような方式のアクティブ・ラーニングは2年間実施しただけで、その後取りやめた。

それに代わるアクティブ・ラーニングとして、初めに教員による講義を聴いた受講生が後の方の時間帯で理解した内容をグループ内の相手に教えるというグループ活動を、平成28年度から取り入れた。これは、講義を聴いて内容を理解したというときの理解レベルと、相手にその内容を教えるというときの理解レベルは違っているということに基づく。相手がその内容を全く知らないということ想定して、その相手に対しわかりやすくかつロジカルに教え、聴く方はクリティカルに対応するという活動を3人ずつのグループで行わせる。グループの一人が説明役になって他の2名に説明をする。聴いている方は、説明の中にわかりにくい部分や矛盾点があれば、すぐに質問を説明者に求める。この説明役をグループ3人の中で一定時間で交代して行い、2人目や3人目が説明するときは前の説明者のときよりもうまく説明するように心がけるといものである。グループ人数を3人としたのは、グループメンバーの全員がアクティブに関わるための適切な数が3人と判断したためである。そして、その内容を授業の最後に振り返りシートにレポートとして記入させて、その場で回収した。振り返りシートに記述する内容は、アクティブ・ラーニングを通して理解した内容を、再度他人に教えるつもりで自分なりの分かりやすい言葉で改めて文章で表現し直してまとめるものとした。レポートの評価では、数学的な本質も含めてどの程度しっかりと各自が理解できているかどうかをチェックした。レポートは次週の授業最初に返却し、間違えやすかった部分やまだよく理解できていないと思われる部分については再度解説をした。

筆者の担当する平成30年度の「数学」の当初のルーブリックは表1にあるもので、これで全部のレポートに対

応する予定であった。しかし、毎回異なる内容のレポートに対して実際に評価しようとしたとき、表1のルーブリックだけでは使いづらいものであることを感じた。

たとえば、「有理数を小数で表すと、必ず有限小数または循環小数になる。それはなぜか。」という講義テーマの場合の振り返りシートでの評価指標としては「有理数とは何かの説明ができて、小数で表すにはどうすればよいのかを説明できている」、「分数の割り算が割り切れる場合の小数の表現について説明できている」、「分数の割り算が割り切れない場合の小数の表現について説明できている」、「余りの種類が有限個であることへ言及している」、「同じ余りがなぜ発生するかの理由について言及している」、「計算が循環することを記述している」という評価指標になる。

また、「円の面積を、微分積分の本質で求める」という講義テーマの場合の振り返りシートでの評価指標としては「答へ至る記述が一応なされている」、「必要な図を書いている」、「円を放射状に細かく分割する記述または図が書かれている」、「分割した一つひとつを簡単な構造に置き換える記述または図が書かれている」、「簡単にした構造物を互い違いに積み重ねる記述または図を書いている」、「四角形にした縦幅と横幅の説明ができています」という評価指標になる。

「数学」の振り返りシートの評価では、毎回の講義テーマごとに具体的な評価指標が異なってくるために、統一的な一つのルーブリックよりも、それぞれに異なるルーブリックを作成して対応する方がより評価しやすいことが実際にやってみて分かった。

「キャリア形成演習Ⅲ」は3名の教員による共同担当科目で、統一したルーブリックは表2の通りである。しかし、筆者担当の「ロールレタリング」、「ロジカルシンキング」、「クリティカルシンキング」、「論理パズル」では、この科目のルーブリックそのままでは使用しづらかった。ここでもテーマ別に異なるルーブリックを作成したものが使いやすかった。

3. Excelマクロシートによるルーブリック評価

Excelマクロシートを用いた評価入力を最初に思い至ったのは、コラム帳とスクラップ帳の評価においてである。本学科（本短期大学部キャリア開発学科）では、国語力をつけさせることと時事問題に強くなることを目的として、コラム帳とスクラップ帳を数回提出させ、「大学基礎演習」や「キャリア形成演習Ⅰ」の成績評価の一部にしている。その提出物の採点が指導主任に割り当てられるが、その際の本学科としての採点基準が表3である。採点は、提出されたコラム帳やスクラップ帳1冊の

中の20編ほどの記事1つ1つに対し、表3による評価点を「正」の字を一画ずつ書いていき、最後に該当数をExcelシートに改めて入力するという方法であった。これはExcelのマクロで処理した方が効率的だと気づき、Excelマクロシートにしたものが図1である。

初めに、名簿での入力位置（たとえばセルD10）をクリックして、セルB8付近にあるマクロ実行の「開始」ボタンをクリックすると、そのセル位置がマクロで記憶される。スクラップ帳の各記事に対し①～⑤の該当数によるマクロ実行の「+1」ボタン（セルE8～I8付近）をクリックすると、その下の評価点（セルE9～I9）の値が1点加算され、重み付けの総点（セルD9）の値が変化する。「-1」ボタンは加算を間違った場合の修正用である。すべての記事に対する評価点を加算させたあと、セルD8付近にあるマクロ実行の「入力」ボタンをクリックするとセル範囲D9～I9の値が記憶された入力位置のセルからセル範囲D10～I10に複製される。入力位置がセルD11へ1つずれて、その位置がマクロで記憶され、セル範囲D9～I9の値が0にクリアされる。入力位置が順番でないところへ飛ぶときは、そのセル位置で改めてマクロ実行の「開始」ボタンをクリックする。マクロ実行の「クリア」ボタンは、セル範囲D9～I9の値を0にするためのものである。

数字キーを押すことなく、マウスをクリックするのみで評価結果が名簿とも連動して順に入力されるため、評価の入力作業効率が格段に向上した。

このExcelマクロシートによる評価入力方式は、数学での毎回の異なる内容の振り返りシートのループリック評価に対しても適用できることを思い付いた。図2がそれである。

図2のExcelマクロシートでは、横1行分のオプションボタンをグループ化して、クリック選択結果のリンク先を右側の「選択」のセルに指定している。右側「123」のすぐ下の数値がHLOOKUP関数で右端の「評価」のセルに評価点として出るようにしている。マクロ実行の「開始位置」ボタンで名簿での評価点を入力する位置（たとえばセルE20）を定めると、その位置がマクロで記憶される。評価基準の該当するオプションボタンをクリック選択すると右端の評価欄に点数が入る。すべての評価指標に対しての評価点が設定できたら、マクロ実行の「入力」ボタンにより評価点が名簿での入力位置に入力され、名簿の次の学生（セルE21）の入力位置がマクロで記憶される。マクロ実行の「クリア」ボタンにより選択欄の値がクリアされる。

図3は、図2のシートをさらに改良したループリックのExcelマクロシートである。マクロ実行の「開始位置」ボタンで指定した入力位置のセルの背景が薄黄色で表示

されて、視覚的に明示されるようにした。マクロ実行の「入力」ボタンで一人分の評価点が名簿に入力されると入力位置のセルの背景は白に戻り、次の入力位置のセルが薄黄色になる。順番を飛ばすときは、その位置で改めてマクロ実行の「開始位置」ボタンを押す。マクロ実行の「終了」ボタンは評価作業が終わるときに、黄色の表示を消すためのものである。

図4は、ループリックの汎用版として作成したExcelマクロのシートである。評価指標と評価基準の項目内容、および評価指標数（最大で10まで）と評価基準数（最大6まで）は科目やレポート内容に合わせて自由に使用範囲を設定できるようにしている。例では、自分が使用する範囲のセル範囲C3～E14の背景を黄色で塗りつぶしている。右側の「123456」のすぐ下のセルの数値を変更することで、評価基準に対する評価点を自由に設定できる。通常のループリックでは評価基準数は各評価指標に対して同じ数に統一するようであるが、評価指標ごとに評価基準数を変えることもできる。

表4は、図4にある4つのマクロ実行ボタンに対するマクロコードである。

図5は、「キャリア形成演習Ⅲ」でのロールレタリングで、「現在の自分から10年後（30歳）の自分宛てに出す手紙を書く」というレポートに対するループリックで、汎用版のループリックからカスタマイズして作成したものである。使用している範囲を薄黄色の背景色にしているが、評価指標により、評価基準数を違えている。このときは「10年後の自分から現在の自分への返信の手紙を書く」レポートも同時に課し、それも同様な別のループリックで評価した。

「数学」でのレポート評価結果の学生へのフィードバックとしては、回収したレポートに評価点（100点満点）を記入したものを次週の講義の最初に返却している。返却するレポートには、間違いや不備な記述部分に赤の手書きで書き込みを入れる場合、赤のラインを入れるだけの場合、赤での指摘を何も書き入れない場合がある。いずれの場合も、次週の講義最初に、よくある間違いや不適切な記述、よく理解できていないと思われる部分については再度解説を行っている。

4. Excelマクロシートによるループリック評価のメリット

田宮(2014)は、ループリックを使用することのメリットとして次のようなことを挙げている。

- ・評価観点・評価規準・評価基準を明確に提示することにより、授業および成績評価に対するアカウントビリティを確保できる。

- ・教員の意図をはっきりと示すことができる（学習目標の明示化）。
- ・採点のぶれが少なくなる（公正な評価、評価の一貫性）。
- ・採点時間の短縮を図れる。
- ・学生への素早いフィードバックに適している。
- ・増加傾向にある学生参加型授業での評価に適している。
- ・教員間の情報共有に適した形態である。
- ・自らの成績評価の盲点を知ることができる（同僚教員・学生からの指摘や示唆によって、より彫琢された形に修正できる）。

筆者が感じた、ルーブリックを利用することのメリットとしては、上記以外に以下のようなことが挙げられる。

- ・共同担当している教員間で、採点基準の統一化がより容易になる。
- ・1週間あるいはそれ以上遅れて提出されたレポート等の評価も、遅れて提出されたことへの減点はするものの、それ以外の部分の評価はそのレポートを本来評価したときとの時間的な経過があっても同じ評価基準によって評価することがより容易になる。

また、Excel マクロシートを使ったルーブリックを利用することのメリットとしては、以下のことが挙げられる。

- ・数値入力のための数字キーにはいっさい触れることなく、マウスのクリック操作のみで評価結果が入力できるので、入力作業がより効率化する。
- ・評価での操作がクリックのみの機械的操作だけできるようになり、評価作業への心理的な負担感が軽減される。
- ・評価入力作業が効率化された分、学生の間違い傾向の事項に対する解説資料作成やレポートへのコメントの手書き記入を行うことに対し、より注力を注ぐ余裕が生じる。
- ・評価結果が名簿データとも連動してファイルデータとしてそのまま残されるため、データとしての保存や管理がやりやすくなる。
- ・評価結果が総計の点数だけではなく、評価指標ごとの評価基準点のデータとしてファイルに残るため、学生ごとの個別の過去の理解度合いや間違いの傾向を確認しやすくなり、学生が個別に質問に来たときの指導もよりやりやすくなる。
- ・Excel の汎用版ルーブリックから、各科目やレポートごとに評価シートをカスタマイズして作成することが容易である。
- ・Excel の汎用版ルーブリックから、評価指標によっ

て評価基準数が異なる形式のルーブリックにも容易にカスタマイズすることができる。

- ・点数配分の変更が、Excel シート上で行うため、容易にできる。

5. まとめと今後の課題

ルーブリック評価が今後さらに求められている状況の中では、Excel マクロシートを用いたルーブリック評価は評価作業の効率化、評価データの管理、学生教育へのフィードバックの点でより有効な手段であることがわかった。Excel マクロを用いた汎用版のルーブリックを作成しておく、科目やレポートごとの異なる内容のルーブリックに対しカスタマイズして対応することが容易であることが確認できた。

今後の課題については、次の点が挙げられる。本年度は、受講生に事前に提示したルーブリックは、当初準備した通常のひとつだけのルーブリックであった。しかし、実際に評価作業で使用したルーブリックは、毎回異なる Excel マクロシートのルーブリックであり、これらは受講生にはその内容を事前に提示しなかった。提示しなかったのは、毎回の異なる Excel マクロシートをレポートの採点段階になってから作成したため、事前に提示するための時間がなかったことによる。また、一部の Excel マクロシートは事前に作成できていたものの、事前に提示することの煩わしさから、提示しなかった。アクティブ・ラーニングの立場では、なるべくルーブリックの内容は事前に学生に提示して周知させたほうがよいとされている。毎回の異なる内容のルーブリックもそのつど受講生に事前に提示するのがよいのか、提示する場合でもどのタイミングでどのように提示するのがよいのかを明らかにすることが、今後の課題である。

参考文献

- 酒見康廣（2018）「教養科目「数学」でのアクティブラーニング」『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』第50号，271-279
- 酒見康廣（2019）「「数学」におけるシルエットパズル教材の活用」『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』第51号，（投稿中）
- 田宮憲（2014）「ルーブリックの意義とその導入・活用」『高等教育開発センターフォーラム』Vol. 1, 125-135

表 1 平成30年度「数学」のルーブリック

数学 ルーブリック (成績評価基準)							
【シラバスの到達目標】							
1. 数学現象について、筋道を立てて相手を納得させるような口頭での説明ができる。							
2. 数学現象について、論理的な説明の記述ができる。							
評価項目	S (秀)	A (優)	B (良)	C (可)	D (不可)	評価割合	
理解度レポート	内容	本質を捉えていて、流れが論理的で矛盾等がない	本質を捉えているかどうか不明であるが、流れに矛盾がない	一部不備な部分があるものの一応は理解できている	不備な部分が目立つが、理解している記述がある	理解しているとは思えない	60%
	考察 (気付き・感想・質問など) ($\pm\alpha$)	自分自身の考えが明確に述べられている	自分自身の考えが述べられているが、量が少ない	単なる感想文になっている	単なる感想文で、量も少ない	記述がない	
	文体 ($\pm\alpha$)	誤字脱字がない	誤字脱字が1か所ある	誤字脱字が2か所ある	誤字脱字が3か所ある	誤字脱字が4か所以上ある	
最終試験	上記「理解度レポート」の評価基準に準ずる。					30%	
アクティブラーニングでの発表内容	本質を捉えた、流れに矛盾等のない論理的な説明が、はっきりとして声でできている	左欄に記述した説明ができているが、声が小さく元気がないもしくは流れに矛盾はなく、声もはっきりとしているが本質を捉えていない可能性がある	一部不備な部分があるものの一応は説明できている	説明に不備な部分目立つ	説明がなされない	10%	
■授業への出席状況により、総合点から α 点(欠席1回につき2点、ただし遅刻3回で欠席1回分、遅刻2回で1点)を減点することがある。							

表2 平成30年度「キャリア形成演習Ⅲ」のルーブリック

キャリア形成演習Ⅲ 成績評価基準						
【シラバスの到達目標】						
1. 明確な職業意識を持つことができる。						
2. ビジネス社会における基本的なマナーを身につけることができる。						
3. 職業人として必要な倫理観を知ることができる。						
4. 職業人としての勤務常識を持って不安なく仕事に就くことができる。						
評価項目	S (秀)	A (優)	B (良)	C (可)	評価割合	
レポート	講義の要旨 30%	担当教員が重要と考える講義のポイントがすべて含まれている。	担当教員が重要と考える講義のポイントが80%以上含まれている。	担当教員が重要と考える講義のポイントが60%以上含まれている。	担当教員が重要と考える講義のポイントが40%以上含まれている。	35%
	まとめ方 30%	ポイントに対して具体的内容が十分に記載されており、分かりやすくまとめている。	ポイントに対して具体的内容が記載されており、分かりやすくまとめている。	ポイントに対して具体的内容があまり記載されておらず、分かりにくい。	ポイントの羅列で終わっており、具体的内容がほとんど記載されていない。	
	考察(気持ち・感想・質問など) 40%	講義内容に関する自分の考えが明確に述べられており、論理的である。量も十分である。	講義内容に関する自分の考えも述べられているが、感想の部分が大きい。量はある。	講義内容に関する感想がほとんどであり、量はやや少ない。	講義内容に関する感想が2, 3行述べられている。	
	文体 ±α	誤字脱技, 句読点, 文法に関してエラーがない。	誤字脱技, 句読点, 文法に関して1, 2か所のエラーがある。	誤字脱技, 句読点, 文法に関して3, 4か所のエラーがある。	誤字脱技, 句読点, 文法に関してエラーが多い。	
事前課題	ゲストスピーカーが講師の際の事前課題	設定されているテーマの意図を正しく判断し、さまざまな手段を用いて適切な情報を収集している。	設定されているテーマの意図を正しく判断しているが、不正確な情報や不用や情報が含まれている。	一定程度の情報収集はできているが、テーマの意図する内容と十分合致していない。	情報収集の方法に対する知識が不十分であり、必要な情報を十分集めているとはいえない。	35%
	文体 ±α	誤字脱技, 句読点, 文法に関してエラーがない。	誤字脱技, 句読点, 文法に関して1, 2か所のエラーがある。	誤字脱技, 句読点, 文法に関して3, 4か所のエラーがある。	誤字脱技, 句読点, 文法に関してエラーが多い。	
最終試験	上記「レポート」の採点基準に準ずる。				35%	
時事問題	90~100点	80~90点	70~80点	60~70点	10%	
アクティブラーニングなどへの積極的参加態度	参加の意義を十分理解したうえで、積極的に参加する姿勢が見られる。	参加の意義の理解にやや欠けるが、積極的に参加しようという意識がある。	参加の意義の理解にやや欠けるが、他者に迷惑はかけてはならないという意識をもちつつ参加している。	参加の意義の理解が不十分ではあるが、他者に迷惑はかけてはならないという意識をもちつつ参加している。	10%	
授業態度	Nakamura Style に準ずる身だしなみおよびマナーを実行できている。積極的に聞く姿勢が見受けられる。	Nakamura Style に準ずる身だしなみやマナーを実行できていない、あるいは積極的に聞く姿勢でないときが1, 2回ある。	Nakamura Style に準ずる身だしなみやマナーを実行できていない、あるいは積極的に聞く姿勢でないときが3, 4回ある。	Nakamura Style に準ずる身だしなみやマナーを実行できていない、あるいは積極的に聞く姿勢でないときが5回以上ある。	10%	

■欠席した場合、レポートは提出できないが事前課題は提出することができる。

■事前課題は次の授業の開始前、レポートは翌週の授業開始前を提出期限とする。1週間遅れまでは提出できるが(遅れた場合は減点あり)、それ以降は提出できない。

■SKYプログラムの試験に3科目以上合格することが単位認定の条件である。

表3 コラム帳・スクラップ帳の採点基準

コラム帳の採点基準	
各記事に対し、次の5項目について採点する。	
評価	評価項目
・ 5項目すべてを満たしているものは5点 ・ 4項目まで満たしているものは4点 ・ 3項目まで満たしているものは3点 ・ 2項目まで満たしているものは2点 ・ 1項目しか満たしていないものは1点	①新聞のコラム記事が最後まで書き写されているか
	②新聞名とコラム名が書かれているか（全記事が同コラムの場合は先頭にその旨の記載があればよい）
	③コラム記事の日付が書かれているか
	④わからない漢字の読みや意味を調べて書いているか
	⑤重要な部分や本質的な部分に赤線を引いたり赤線で囲ったりしているか
スクラップ帳の採点基準	
各記事に対し、次の5項目について採点する。	
評価	評価項目
・ 5項目すべてを満たしているものは5点 ・ 4項目まで満たしているものは4点 ・ 3項目まで満たしているものは3点 ・ 2項目まで満たしているものは2点 ・ 1項目しか満たしていないものは1点	①記事が掲載された新聞名が書かれているか
	②記事が掲載された日付が書かれているか
	③朝刊・夕刊等の区別が書かれているか
	④記事の要点部分に傍線やマーカーが入れているか
	⑤自分なりのコメントが書かれているか
※ 1日1件とし、同じ日の新聞から複数記事をスクラップした場合は、減点の対象とする。	

表4 汎用版ルーブリックのマクロコード

```

Dim p, q, pp, qq As Long

Sub ボタン1_Click()
    p = ActiveCell.Row
    q = ActiveCell.Column
    Cells(p, q).Interior.Color = RGB(255,255,200)
    On Error Resume Next
    If p <> pp Or q <> qq Then
        Cells(pp, qq).Interior.Color = RGB(255,255,255)
    End If
    pp = p
    qq = q
End Sub

Sub ボタン2_Click()
    Range("J 4:J 22").ClearContents
End Sub

Sub ボタン3_Click()
    On Error GoTo myError
    Cells(p, q).Select
    ActiveCell.Value = Range("R 24").Value
    ActiveCell.Offset(0,1).Activate
    ActiveCell.Value = Range("R 4").Value
    ActiveCell.Offset(0,1).Activate
    ActiveCell.Value = Range("R 6").Value
    ActiveCell.Offset(0,1).Activate
    ActiveCell.Value = Range("R 8").Value
    ActiveCell.Offset(0,1).Activate
    ActiveCell.Value = Range("R 10").Value
    ActiveCell.Offset(0,1).Activate
    ActiveCell.Value = Range("R 12").Value
    ActiveCell.Offset(0,1).Activate
    ActiveCell.Value = Range("R 14").Value
    ActiveCell.Offset(0,1).Activate
    ActiveCell.Value = Range("R 16").Value
    ActiveCell.Offset(0,1).Activate
    ActiveCell.Value = Range("R 18").Value
    ActiveCell.Offset(0,1).Activate
    ActiveCell.Value = Range("R 20").Value
    ActiveCell.Offset(0,1).Activate
    ActiveCell.Value = Range("R 22").Value
    ActiveCell.Offset(1,-10).Activate
    Cells(pp, qq).Interior.Color = RGB(255,255,255)
    p = p+1
    Cells(p, q).Interior.Color = RGB(255,255,200)
    pp = p
    qq = q
    Exit Sub
myError:
    MsgBox "最初に[開始位置]ボタンでデータの入力位置を指定してください",vbExclamation
End Sub

Sub ボタン4_Click()
    On Error GoTo myError 2
    Cells(p, q).Interior.Color = RGB(255,255,255)
    Range("J 4:J 22").ClearContents
    Exit Sub
myError 2:
    MsgBox "最初に[開始位置]ボタンでデータの入力位置を指定してください",vbExclamation
End Sub

```

A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	スクラップ帳の採点表							
2		①記事が掲載された新聞名が書かれているか						
3		②記事が掲載された日付が書かれているか						
4		③朝刊・夕刊等の区別が書かれているか						
5		④記事の要点部分に傍線やマーカーが入れているか						
6		⑤自分なりのコメントが書かれているか						
7	各記事に対する①～⑤の該当項目数 →			5項目	4項目	3項目	2項目	1項目
8	開始	クリア	入力	+1 -1	+1 -1	+1 -1	+1 -1	+1 -1
9	評価点 =			0	0	0	0	0
10	18H901	〇〇	〇〇					
11	18H902	〇〇	〇〇					
12	18H903	〇〇	〇〇					
13	18H904	〇〇	〇〇					
14	18H905	〇〇	〇〇					

図1 スクラップ帳の採点表

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	「数学」振り返りレポート（有理数の小数表現）の成績評価基準										
2	評価基準	評価割合	模範的	標準	努力を期待	選択					評価
3	1.有理数の定義の記述	15%	● 点	○ 点	○ 点	1 2 3					15
4						1	15	10	5		15
5	2.割り切れて有限小数になる記述	20%	○ 点	● 点	○ 点	1 2 3					15
6						2	20	15	10		15
7	3.割り切れないときの無限性と余りの値	30%	○ 点	● 点	○ 点	1 2 3					25
8						2	30	25	20		25
9	4.余りは有限値となる記述	15%	● 点	○ 点	○ 点	1 2 3					15
10						1	15	10	5		15
11	5.同じ余りが出ることの記述	10%	○ 点	● 点	○ 点	1 2 3					8
12						2	10	8	5		8
13	6.計算が循環することの記述	10%	● 点	○ 点	○ 点	1 2 3					10
14						1	10	8	5		10
15	7.間違い	減点	● 点	○ 点	○ 点	1 2 3					-10
16						1	-10	-15	-20		-10
17	開始位置			クリア	入力						計 78
18											
19	No.	学籍番号	氏名	評価点	1	2	3	4	5	6	7
20	1	18H901	〇〇 〇〇		91	15	15	30	15	8	8
21	2	18H902	〇〇 〇〇		90	10	20	30	15	5	10
22	3	18H903	〇〇 〇〇		78	15	15	25	15	8	10
23	4	18H904	〇〇 〇〇								
24	5	18H905	〇〇 〇〇								

図2 数学（有理数の小数表現）のルーブリック

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
1	「数学」振り返りレポート（円の面積を求める）の成績評価基準												
2	評価基準	評価割合	模範的	標準	努力を期待	選択						評価	
3	1.結論に至る記述が	80%	一応書けている	途中で終わっている	書けていない	1	2	3				80	
4	できている		●	○	○	1	80	50	30				80
5	2.必要な図を書いて	20%	書いている	不完全	書けていない	1	2	3				10	
6	いる		○	●	○	2	20	10	5				10
7	3.細かく分割すること	減点	書いている	不完全	書けていない	1	2	3				0	
8	の記述		●	○	○	1	0	-5	-10				0
9	4.その一つひとつを簡単な	減点	書いている	不完全	書けていない	1	2	3				-5	
10	図に置き換える		○	●	○	2	0	-5	-10				-5
11	5.互い違いに積み重ね	減点	書いている	不完全	書けていない	1	2	3				-5	
12	ねることの記述		○	●	○	2	0	-5	-10				-5
13	6.構構の説明	減点	書いている	不完全	書けていない	1	2	3				-5	
14			○	●	○	2	0	-5	-10				-5
15	7.間違い	減点	1つ	2つ	3つ	1	2	3					
16			○	○	○		-10	-15	-20				
17	開始位置 入力 クリア 終了											計 75	
19	No.	学籍番号	氏名		評価点	1	2	3	4	5	6	7	
20	1	18H901	○○ ○○		90	80	20	-5	0	-5	0		
21	2	18H902	○○ ○○		75	80	10	0	-5	-5	-5		
22	3	18H903	○○ ○○										
23	4	18H904	○○ ○○										
24	5	18H905	○○ ○○										

図3 数学（円の面積を求める）のルーブリック

	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
1	ルーブリック																
2	割合	基準レベル6	基準レベル5	基準レベル4	基準レベル3	基準レベル2	基準レベル1	選択									評価
3	40%	レベル6	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1	1	2	3	4	5	6				
4		○	○	○	○	○	○	1	2	3	4	5	6				
5	20%	レベル6	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1	1	2	3	4	5	6				
6		○	○	○	○	○	○	20	15	10	0	0	0				
7	20%	レベル6	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1	1	2	3	4	5	6				
8		○	○	○	○	○	○	20	15	10	0	0	0				
9	10%	レベル6	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1	1	2	3	4	5	6				
10		○	○	○	○	○	○	10	7	4	0	0	0				
11	10%	レベル6	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1	1	2	3	4	5	6				
12		○	○	○	○	○	○	10	7	4	0	0	0				
13	減点	1つ	2~3個	4つ以上	レベル3	レベル2	レベル1	1	2	3	4	5	6				
14		○	○	○	○	○	○	-5	-10	-15	0	0	0				
15	0%	レベル6	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1	1	2	3	4	5	6				
16		○	○	○	○	○	○	0	0	0	0	0	0				
17	減点	1つ	2つ	3つ	4つ	5つ	6つ	1	2	3	4	5	6				
18		○	○	○	○	○	○	0	0	0	0	0	0				
19	減点	1つ	2つ	3つ	4つ	5つ	6つ	1	2	3	4	5	6				
20		○	○	○	○	○	○	0	0	0	0	0	0				
21	減点	1つ	2つ	3つ	4つ	5つ	6つ	1	2	3	4	5	6				
22		○	○	○	○	○	○	0	0	0	0	0	0				
23	開始位置 入力 クリア 終了																
25	No.	学籍番号	氏名		評価点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
26	1	18H901	○○ ○○														
27	2	18H902	○○ ○○														
28	3	18H903	○○ ○○														
29	4	18H904	○○ ○○														
30	5	18H905	○○ ○○														

図4 汎用版のルーブリック

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
1	「キャリア形成実習Ⅳ」ロールレタリング(現在の自分から10年後の自分宛て)																	
2	評価項目	割合	基準レベル6	基準レベル5	基準レベル4	基準レベル3	基準レベル2	基準レベル1	選択									評価
3	現在の自分の状況 や気持ちの表現	40%	かなりよくできている ○	よくできている ○	ふつうにできている ○	まあまあできている ○	わずかにできている ○	まったくできていない ○	<input type="checkbox"/>									
4	相手への配慮	20%	かなりよくできている ○	よくできている ○	ふつうにできている ○	まあまあできている ○	わずかにできている ○	まったくできていない ○	<input type="checkbox"/>									
5	気持ち	20%	かなりある ○	ある程度ある ○	少ない ○	レベル3 ○	レベル2 ○	レベル1 ○	<input type="checkbox"/>									
6	文章の量	10%	多い ○	普通 ○	少ない ○	レベル3 ○	レベル2 ○	レベル1 ○	<input type="checkbox"/>									
7	誤字・数字	10%	なし ○	1~2個 ○	3個以上 ○	レベル3 ○	レベル2 ○	レベル1 ○	<input type="checkbox"/>									
8	提出の遅れ	減点	なし ○	1週間以内 ○	1週間を超える ○	レベル3 ○	レベル2 ○	レベル1 ○	<input type="checkbox"/>									
9			レベル6 ○	レベル5 ○	レベル4 ○	レベル3 ○	レベル2 ○	レベル1 ○	<input type="checkbox"/>									
10			1つ ○	2つ ○	3つ ○	4つ ○	5つ ○	6つ ○	<input type="checkbox"/>									
11			1つ ○	2つ ○	3つ ○	4つ ○	5つ ○	6つ ○	<input type="checkbox"/>									
12			1つ ○	2つ ○	3つ ○	4つ ○	5つ ○	6つ ○	<input type="checkbox"/>									
13			1つ ○	2つ ○	3つ ○	4つ ○	5つ ○	6つ ○	<input type="checkbox"/>									
14			1つ ○	2つ ○	3つ ○	4つ ○	5つ ○	6つ ○	<input type="checkbox"/>									
15			1つ ○	2つ ○	3つ ○	4つ ○	5つ ○	6つ ○	<input type="checkbox"/>									
16			1つ ○	2つ ○	3つ ○	4つ ○	5つ ○	6つ ○	<input type="checkbox"/>									
17			1つ ○	2つ ○	3つ ○	4つ ○	5つ ○	6つ ○	<input type="checkbox"/>									
18			1つ ○	2つ ○	3つ ○	4つ ○	5つ ○	6つ ○	<input type="checkbox"/>									
19			1つ ○	2つ ○	3つ ○	4つ ○	5つ ○	6つ ○	<input type="checkbox"/>									
20			1つ ○	2つ ○	3つ ○	4つ ○	5つ ○	6つ ○	<input type="checkbox"/>									
21			1つ ○	2つ ○	3つ ○	4つ ○	5つ ○	6つ ○	<input type="checkbox"/>									
22			1つ ○	2つ ○	3つ ○	4つ ○	5つ ○	6つ ○	<input type="checkbox"/>									
23																		
24																		
25																		
26																		
27																		
28																		
29																		
30																		

図5 ロールレタリング（現在の自分から10年後の自分宛ての手紙）のルーブリック